

項目		図画工作 (開隆堂出版)
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領と教科の目標との関わり		<p>○児童が主体的に活動する手立てとして活動の写真や児童及び他の作家の作品を多く取り上げ、意欲を喚起し、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わえるようになっている。</p> <p>○題材について目標をマークで示すとともに、活動の課題を示し、学習の振り返りを位置づけることで創造活動の基礎的能力が身につくようになっている。</p>
特色	内容	<p>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫〉</p> <p>○「道具箱」・「パレットコーナー」で工作や絵を描く活動に必要な基礎・基本の知識や技法がまとめられ、各題材の中にも必要な材料や用具の扱いなどの表現技法を示すことで、造形的な創造活動の基礎的能力を培えるようになっている。</p> <p>○題材に親しみを増し、イメージをふくらませ、より正確に習得できるように、写真やイラストレーションを多く取り入れている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <p>○作品の解説は、児童の思いが伝わるように児童の言葉で表現され、発想や構想をする上でブルーの囲みで示すなど、ヒントとなるように工夫されている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <p>○目標と題材の脇に制作の手順、材料・用具の使い方、技法の手だてなどが示され、児童の主体的な活動につながるような写真が掲載され、活動のイメージをもてるよう工夫されている。</p> <p>〈表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう工夫〉</p> <p>○学習指導要領の「内容」が2学年まとめてあり、子どもたちの発達段階をふまえ、題材を子どもの資質や能力の育成という観点から精選され、子どもたちが生き生きと取り組めるような題材が設定してある。</p> <p>○鑑賞題材については、すべての学年に設定され、「みんなのギャラリー」では、日本の祭りや地域の美術展・伝統工芸を紹介し、教室外にも造形活動が広がるよう工夫され、作品について語り合えるようになっている。また、作品を見合ったりしている姿にマークをつけて、鑑賞の力が働くよう工夫されている。</p> <p>○巻末の「パレットコーナー」「道具箱」のページで材料や用具の扱い、技法を紹介し、児童が表現の幅を広げられるようになっている。また、題材に関連する表現方法や技法をページ内にも掲載し、児童が自主的に確認や試行錯誤が出来るよう工夫されている。</p> <p>〈造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養うための工夫〉</p> <p>○題材ごとの目標や「ふりかえって話し合おう」、作品に対する作者の言葉などによって、〔共通事項〕を意識させるよう工夫されている。</p> <p>○鑑賞題材では児童の意見が示され、「小さな美術館」では発達の段階に応じたテーマで作品について語り合えるよう工夫されている。</p>
	資料	<p>○低学年では吹き出しの活用、高学年では制作過程でのつぶやきを活用したり、作品を大きく提示したりして、発達段階に応じた発想のヒントを示している。</p> <p>○指導事項はグレーの囲みで、児童の主体的な活動はブルーの囲みで分けて示している。「パレットコーナー」「道具箱」のページを設け、工作や絵を描く活動に必要な基礎・基本の知識や技法を発達段階に合わせて系統的に示している。</p>
	表記・表現	<p>○目標、題材名、導入が最初に書かれ、最後に振り返りの観点が示されている。導入文は、児童の発想を広げる内容である。目次では、主な用具・材料が確認でき、活動に向けての準備が出来るよう工夫されている。</p> <p>○吹き出しや囲み、マークを使って活動や工夫のポイントを伝えている。また、マークによって、培いたい力や関連するページを示している。作者の言葉も「」で示されている。</p>
	総括	<p>○児童の思いや発想が広がるような各学年のテーマや児童が自主的・主体的に追求できる課題名により、児童の造形活動への意欲を高めるようになっている。</p> <p>○多くの材料例や多様な表現方法を紹介し、造形的な創造活動の基礎的な能力を培おうとしている。また『みんなのギャラリー』、裏表紙では様々な作品を取り上げ、人との交流や未来への希望を意識しながら感性を育もうとしている。</p> <p>○巻末の『道具箱』『パレットコーナー』で、材料や用具の扱いを示し、表現に必要な技法や知識を確認できるようになっている。</p>

項目	図画工作 (日文出版)
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>○活動する児童の表情や様子の分かる写真や児童の言葉、児童の作品を数多く取り上げ、児童の意欲を喚起し、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わえるようになっている。</p> <p>○題材ごとに『学習のめあて』を明確に示すとともに、材料や用具の使い方について巻末の写真や図版で説明したり、保幼小中との連携を意識した図画工作の広がりや位置づけたりすることで、創造活動の基礎的能力が身につくようになっている。</p>
特色	<p>〈基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫〉</p> <p>○『使ってみよう材料と用具』で工作や絵を描く活動に必要な基礎・基本の知識や技法がまとめられている。また、各題材で学習活動内容や使用する用具が記載され、造形的な創造活動の基礎的能力を育てるよう工夫されている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <p>○制作場面の写真や作品が多く掲載され、また活動のヒントを登場するキャラクターで示し、児童の発想や想像力を引き出すような工夫がされている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <p>○入口に示した「学習のめあて」で授業がイメージしやすく工夫されている。また巻頭の折り込みページで子どもたちの図画工作への関心・意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>〈表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう工夫〉</p> <p>○6年間通して、発達段階に応じた題材選択とバランス良い系統的配列である。また、幼稚園・保育所や中学校との関連を考えた題材構成が見られる。</p> <p>○題材名や簡潔な導入文と授業情景写真によって活動内容が分かり、見通しをもって自分の思いを表現できるようになっている。</p> <p>○巻頭『教科書美術館』や巻末の『ぞうけいのもり』のページでは、様々な作品より表現する喜びや楽しさが感じられるよう工夫されている。また、作者の言葉と一緒に掲載されており、作者の思いを知ることが出来るとともに、児童のつぶやきを載せ、作品への思いを言葉で確認できるようになっている。</p> <p>○巻末の「使ってみよう材料と用具」に学年に応じた材料や用具が技法とともにまとまって掲載されているため、分かりやすい。また、安全で適切な材料と用具の使い方を学ぶことができるようになっている。</p> <p>〈造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養うための工夫〉</p> <p>○福祉、国際理解、特別支援教育、防災・安全教育にも配慮されている。</p> <p>○題材ごとの「学習のめあて」やキャラクターの言葉、活動中の児童のつぶやきなどによって、[共通事項]を意識させるようになっている。</p> <p>○作者の言葉が書いてあり、作者の思いを知ることができるとともに、児童のつぶやきを載せることで、表現したいことを言葉で確認できるようになっている。</p>
資料	<p>○登場するキャラクターの言葉が制作するときの工夫や発想のヒント、鑑賞するときの始点などを示し、題材の目標に迫る助けとなっている。</p> <p>○活動の流れに沿って制作の様子や作品の工夫点を写真で示すとともに、写真に対し簡潔な説明や作者の思いを載せることで完成までの過程をまとめている。また、いくつかの作品には作者の思いや表現の工夫が示されている。</p>
表記・表現	<p>○活動内容、題材名、学習のめあて、導入文がひとまとまりになって示され、導入文は、児童の創作意欲を高める工夫が見られる。また目次では、活動の内容をマークと写真で確認できるようになっている。</p> <p>○キャラクターが、『きをつけよう』『かたづけ』という言葉とマークで活動のポイントを簡潔に示し、また、作者の言葉も囲みを使って表されている。</p>
総括	<p>○造形活動を通して育てたい力をテーマとして設定している。また、活動内容が分かる題材名により、造形活動への意欲が高まるようになっている。</p> <p>○技法や制作の手順が写真や説明文等で示され、造形的な創造活動の基礎的な能力を培おうとしている。また、『図画工作の広がり』では、活動を通じた人との触れ合いや身近な地域、社会との共生の様子を紹介し感性を育もうとしている。</p> <p>○巻末の『使ってみよう材料と用具』では材料や用具の扱いを示し、表現に必要な技法や知識が6ページにわたり幅広く紹介されている。</p>